

# 緑陰施設利用者・関係者の声

新横浜の実証実験で、緑陰施設を利用されている方に感想をお聞きました。

近くに大きな病院があるので、ご年配の方が通院時に利用されています。ミストが出るトンネル型、ベンチのあるパラソル型ともに町内会でも喜ばれています。



地元町内会長

いつも昼食で使っています。日陰が良いですね。



30代 男性



30代 女性

どちらかの面が日陰になっているのが良いですね。毎日ここを使っており、ベンチはちょうど良いです。散歩の休憩に足が伸ばせます。

ラグビーワールドカップ2019™では、国内外の多くの来場者の皆様にクールスポットを提供することができました。



市役所職員

## Variations of facility installation

# 緑陰施設のバリエーション

緑陰施設は、設置場所の特性や求める機能に応じてさまざまなバリエーションが開発されています。また、緑陰施設の暑熱対策効果を十分に得るためには、植物の生長に応じた準備期間を想定し、設置計画を立てる必要があります。

※みどりのクールスポットの詳細は、右記の二次元コードをスマートフォン等で読み取ってご覧ください。

詳細はこちら▼



### パラソル型

上部を緑化することで、太陽高度の高い日中の日射を効果的に遮ります。



### カーテン型

壁状に緑化することで、朝夕の日射、特に強い西日などを遮ります。



### パラソル・カーテン併用型

上部と側面を両方緑化することで、両者の良いところを兼ね備えます。



### トンネル型

トンネル状の空間を形成し、上部と側面の切れ目なく効果を発揮します。

※各バリエーションの基本形をイラスト化しています。この他にも多くのバリエーションがあります。

## Contact Us

詳しくはこちら

国交省 みどりのクールスポット

検索

### 資料に関するお問い合わせ

国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 緑地環境室 緑地環境技術係  
Tel: 03-5253-8111 (代表) 〒101-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3

## 緑陰施設でつくる

# まちなかみどりの クールスポット



## 据え置き型の施設で 一時的な休息空間(クールスポット)を創出

年々厳しさを増す夏の暑さ。コンクリートに囲まれた都市空間において、暑熱対策として重要性を増しているのが都市緑化です。国土交通省では、緑陰施設の利用を提案します。

緑陰施設は、植物で日陰を創出することで、利用者の体感温度を改善する据え置き型の施設です。ミストと組み合わせることでより効果を発揮します。

### 緑陰施設のメリット

- 基礎のいらない据え置き型の施設なので、コストを抑えて設置でき、現状復旧も簡単です(条件によって基礎の設置も可能です)。
- 日除けとベンチなどを一体型にした施設なので、構造物を個別につくる必要がなく、設置が簡単です。
- 季節感のある植物で緑陰をつくることで、魅力的な空間づくりが可能です。
- 屋外にゆとりのある空間をつくり、新型コロナウイルス感染症拡大対策として「3つの密」を避けた暑熱対策が可能です。



国土交通省 都市局 公園緑地・景観課

Example of installation

# 「居心地よく歩きたくなる空間」をつくる 緑陰施設の設置例

## 都市公園

都市公園内にイベント等のニーズに対応し、緑陰施設を一時的に設置することができます。緑陰施設を連続して用いることでシンボリックな空間をつくることも可能です。

### 新横浜での実証実験

JR新横浜駅から横浜国際総合競技場（ラグビーワールドカップ2019™会場）への経路にある新横浜駅前公園に緑陰施設を設置し、たくさんの方に休息空間（クールスポット）としてご利用いただきました。その効果を右ページでご紹介します。



## 街路空間

街路空間の暑熱対策として緑陰施設を活用できます。据え置き型の施設なので、街路空間内に簡単に設置でき、沿道の店舗との相乗効果も期待できます。



暑熱対策に加えて、沿道の店舗等と一体的に利用することで賑わう場をつくります

## 広場空間

民間施設等の広場空間における暑熱対策として緑陰施設を活用できます。Wi-Fi等と組み合わせることで広場がオフィス空間に、飲食提供等と組み合わせることで広場が交流の場になります。



暑熱対策に加えて、屋外テレワークや交流の場としての新たな空間を提供します

Effect of experiment

# 新横浜での実証実験における 体感温度の改善効果

体感温度の計測結果では、一般的な舗装面と比較し、表面温度で約12℃、暑さ指数（WBGT※1）で約3℃の低減効果が確認されました。

※1：暑さ指数（WBGT）：気温、湿度、輻射熱の3つを取り入れた温熱環境の指標です。熱中症の危険度を判断する数値として用いられます。

## 一般的な舗装面

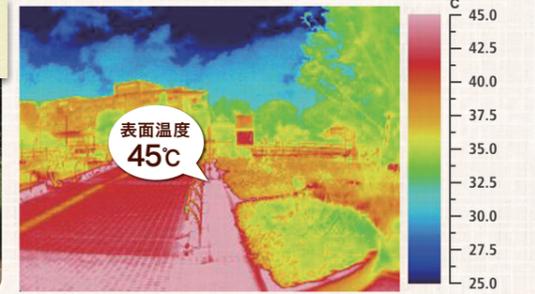
表面温度  
45℃ (2020年8月22日昼)

真夏の広場の舗装路面の表面温度は45℃、暑さ指数(WBGT)は33℃近くに達していました。

暑くて暑くてたいへん!



WBGT※2  
32.3℃ (12:30)  
32.9℃ (13:30)



※2：WBGTは一般的な舗装面との差が最大になったときの値(時刻)

## 緑陰施設(ミスト無し)の設置場所

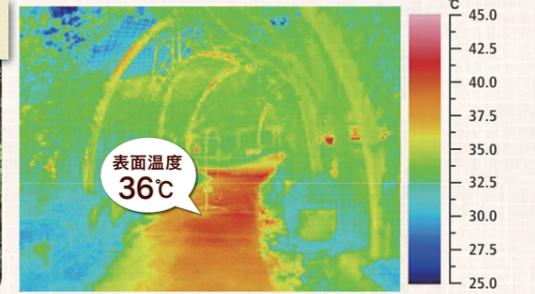
表面温度  
36℃ (2020年8月22日昼)

緑陰によって日差しを遮り照り返しを防ぐだけで、一般的な舗装面から表面温度は約9℃、暑さ指数(WBGT)は約2.2℃下がりました。

こっちは涼しいね



WBGT※2  
30.1℃ (12:30)



## 緑陰施設(ミスト有り)の設置場所

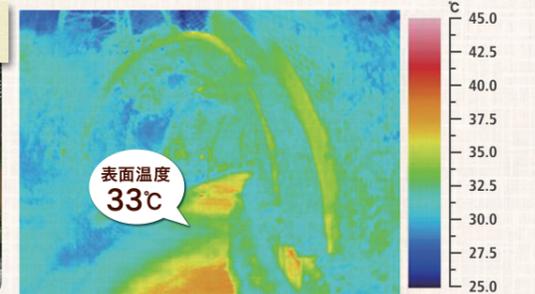
表面温度  
33℃ (2020年8月22日昼)

緑陰に加えてミスト装置を併用することで、さらに舗装面の温度を抑えることができました。一般的な舗装面から表面温度は約12℃、暑さ指数(WBGT)は約3℃下がりました。

ふくしまつ



WBGT※2  
29.9℃ (13:30)



防衛大学 地球海洋学科 菅原 広史教授

緑と水の効果で暑さ指数(WBGT)は約3℃低減しました。葉は人工的な日除けと異なり、熱を逃がしやすく、蒸発散があるため温度が上がらない特徴があります。葉の温度が低いことで、輻射熱が減り、ひいては暑さ指数(WBGT)の低下につながっています。緑は我々の心だけでなく体へのストレスも和らげてくれるのです。

